

## From Ibigawa S A B O

夏休みの期間中は暑い日が続きますが、幅広い年齢層の方に、現場見学をしていただいております。里山探検隊では、砂防堰堤に加え、奥越豪雨による崩壊地を訪れました。また、夏休み特別教室や職場体験学習などの催しで、砂防の工事現場を見学していただきました。

### 奥越豪雨から50年の時を経た崩壊地へ ～里山探検隊 第2回目～

### 夏休みに親子で現場体験 =八草川=

今年度第2回目の里山探検隊を8月5日に実施しました。今回は、揖斐川町坂内坂本（さかうちさかもと）地先の山の谷第1砂防堰堤において「壁面魚道」「サイフォン式小水力発電の開発実験」などを見学しました。

揖斐川町坂内川上（さかうちかわかみ）地先で八草川（はっそうがわ）山腹工事の施工を行っている(株)久保田工務店の協力の下、7月27日に揖斐川町教育委員会・中央公民館主催の夏休み特別教室として、町内の小中学生と保護者を対象に、工事現場見学会を開催しました。

また「もろかの里」においては、プラストアートや手織りの工芸体験を行い、参加者の思うままに多様なデザインの作品が出来上がりました。

平成22年1月に発生した八草川左岸山腹崩壊箇所の復旧工事の見学並びにモノレールや建設機械の乗車体験などを行いました。また、当出張所の土屋出張所長が、土砂災害の恐ろしさや、砂防堰堤の役割を説明しました。

その後は徳山ダムを訪れ、昭和40年の奥越豪雨により

発生した徳山白谷の大崩れ現場を見学しました。ダム完成後は、現地に向かう手段が無い状態でしたが、ダム連絡船「とくまる」で対岸へ渡り、ダム完成後初めての見学となりました。現地ではパネル図面を見つつ、大崩れ発生時の地形の変化を実感しました。



手織りの工芸体験



土屋出張所長が工事概要を説明



モノレールの乗車体験



サイフォン式小水力発電の開発実験



徳山白谷では大崩れ当時の図面を見ながら風化を実感



バックホウの操作体験



測量機器を使って測量体験

### 地元中学生が職場体験で砂防に注目

### 砂防堰堤の機能が向上 =揖斐川流木=

(株)朝日工営では、本巣市立糸貫中学校の生徒5名を受け入れて職場体験学習を実施しており、その一環で7月31日に砂防現場を視察しました。八草川山腹工事と地谷第2砂防堰堤工事の現場で働く技術者さんの話を聞き、安全帯によるぶら下がり体験とモノレールの乗車体験を行いました。また、ナンノ谷大崩壊地の見学及び事務所での模型を用いた説明で、砂防事業や土砂災害に関する学習をしました。皆さん興味を持って学んでいました。

揖斐川流木対策工事では、2箇所では流木災害・土砂災害防止のため、既存の砂防施設の機能を向上させる工事を行います。揖斐川町坂内坂本地先の寒谷（さむたに）第1砂防堰堤を一部改良し、出水時に流下する流木の捕捉機能を向上させる工事と、坂内広瀬（さかうちひろせ）地先の坂内砂防堰堤において、上流に堆積した土砂を取除く工事です。この施工は、(株)ヤマモトが行います。



安全帯によるぶら下がり体験



模型を用いて村上技官が説明



坂内砂防堰堤の上流に堆積した土砂



寒谷第1砂防堰堤に鋼製流木止を設置



## 昭和40年(1965)災害／『奥越豪雨』⑩

## 真名川筋

## 福井県側の西谷村は廃村の道をたどる ①

昭和40年(1965)9月15日の集中豪雨は、福井県の九頭竜川の上流を流れる真名川流域にも壊滅的な被害を与えた。

真名川上流域一帯は、越美山系の温見峠から熊河峠へ抜ける温見断層、さらに東西に秋生断層、大納断層、足羽断層などが延びる複雑な地形で、隆起以前の準平原遺物である箕輪形の平(ダイラ)の発達があり、流域内には山腹崩壊、河岸洗掘が随所に生じ、多大な不安定土砂が生産され、特に中島集落の被害が甚大であった。

中島集落は両白山地内にあり、笹生川・雲川が合流して真名川となる地点に位置している。中島集落の約200m南方を、西北西～東南東方向に地質境界が通っている。中島集落を含む北側は、手取層群と呼ばれるジュラ紀～白亜紀の頁岩《けつがん》・砂岩・礫岩で、南側は年代不詳(三畳紀～白亜紀)の礫岩・砂岩・頁岩・凝灰角礫岩からなる本戸累層である。

中島集落周辺の山地は満壮年期山地で、笹生川、雲川、真名川の谷の形状は、狭窄部と拡幅部が交互に連なり、中島集落付近は拡幅部に相当する。昭和40年災害当時の中島集落は、雲川右支鎌谷川の沖積錐上および笹生川右支木落谷の沖積錐上に立地していた。鎌谷川は標高600m付近を境として、上流部が緩勾配(標高600～800m区間で1/8.3)で下流部が急勾配(標高400～600m区間で1/5.6)となっている。また、真名川右支コアゾ谷も溪口に沖積錐を形成している。

福井県の真名川流域では、9月9日～10日に、台風23号に見舞われたばかりで、その後一時、降雨は途絶えたが、13日午後から日本の南海上にあった前線が台風24号の北上とともに押し上げられ、14日午後から再び激しい豪雨となった。最大時間雨量89.5mm、14日午前9時から15日午前9時までの日雨量は844mm、総雨量は1,044mmに達した。

鎌谷川では、14日20時頃から増水し始め、15日早朝から土砂の流出が著しくなり、中島集落中央部が土砂で埋没した。真名川本川の河道閉塞の原因となったコアゾ谷の崩壊は、15日8時頃発生した。また、中島発電所では、14日20時30分に浸水が始まり、15日4時に濁流が入口を押し破って流入した。

この集中豪雨によって、真名川の上流で笹生川との合流地点にある西谷村(現大野市)の中心・中島集落と上笹又集落は廃村に追いやられる壊滅状態に陥った。

&lt;つづく&gt;



中島集落のメインストリートにあった公民館は2階まで土砂に埋もれた

出典：越美山系災害史(原文)

《 》はクマタカ通信転載にあたっての補足箇所  
発行：越美山系砂防工事事務所 平成10年10月

## 龍神にも砂防をPR ～夜叉ヶ池道中祭り

夜叉ヶ池伝説道中祭りが、7月25日に揖斐川町坂内広瀬で催されました。夜叉ヶ池伝説とは、9世紀頃に下流域(現在の神戸町付近)で干ばつに見舞われた際、上流域の龍が雨を降らせ、その見返りとして、庄屋の娘が龍の元へ嫁ぎ、自身も龍となったお話です。祭りでは伝説にちなんだ龍神の舞などの行事があり、訪れた人達の目を引いていました。当事務所もブースを設けて、パネル展示、土石流模型及び東横山地すべりのDVD放映を行いました。



迫力ある龍神の舞



児童へ丁寧に説明する大島技官

クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発行 国土交通省中部地方整備局  
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所  
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3  
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626  
E-mail: [ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp](mailto:ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp)